

# りそな 経済フラッシュ

## (日銀金融政策決定会合)



### 〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%程度、国債買入れペース年間80兆円めどは変更なし
- ◆ フォワードガイダンスについても従来同様の表現を維持
- ◆ 政府の「積極的な財政支出」を背景に成長率見通しを上方修正

✓ 日本銀行は1月21日の金融政策決定会合にて、**「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続を決定した。**

✓ 主な政策は以下の通り。

✓ 政策金利のフォワードガイダンス：「物価安定の目標」に向けたモメンタムが損なわれる惧れに注意が必要な間、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している。

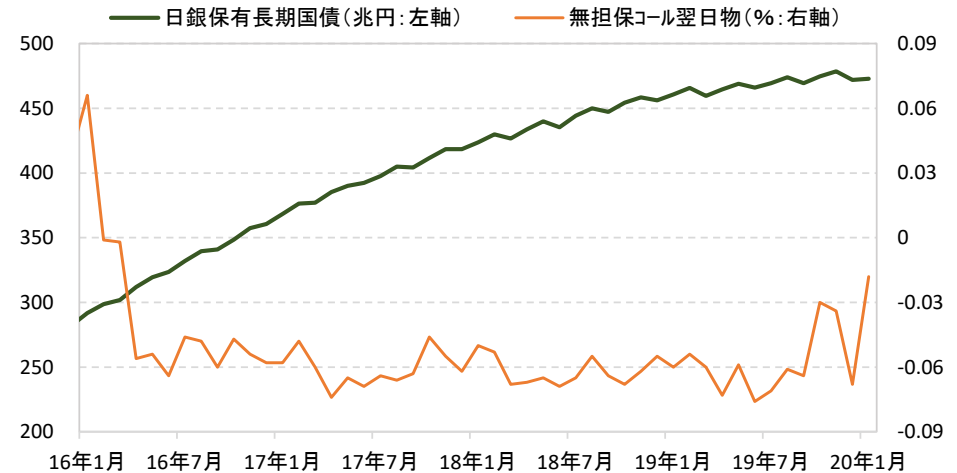
✓ 長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを行う。買入れ額は保有残高の増加額年間約80兆円をめどとして弾力的に実施。長期金利は、経済・物価情勢に応じて上下にある程度変動しうるものとした。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで増加。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。買入額は、市場の状況に応じて、上下に変動しうるものとした。

✓ **今回、発表された「経済・物価情勢の展望」では2021年度までの見通し期間を通じて成長率見通しを上方修正した。**背景として政府の「積極的な財政支出」に言及している。一方でリスク要因として海外経済に言及。「下振れリスクは、ひと頃よりも幾分低下したものの、依然として大きい」と評価した。

✓ 物価見通しは下方修正され、「景気の拡大や労働需給の引き締まりに比べると、弱めの動きが続いている」と評価した。

✓ **今回の現状維持は市場予想通りであり、金融市場の反応は限定的。**

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【2019-2021年度の政策委員の大勢見通し（1月時点）】

	実質GDP		消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げ・ 教育無償化政策の 影響を除くケース
(対前年度比、%)				
2019年度	+0.8% ~ +0.9%		+0.6% ~ +0.7%	+0.4% ~ +0.5%
	< +0.8% >		< +0.6% >	< +0.4% >
10月時点の見通し	+0.6% ~ +0.7%		+0.6% ~ +0.8%	+0.4% ~ +0.6%
	< +0.6% >		< +0.7% >	< +0.5% >
2020年度	+0.8% ~ +1.1%		+1.0% ~ +1.1%	+0.9% ~ +1.0%
	< +0.9% >		< +1.0% >	< +0.9% >
10月時点の見通し	+0.6% ~ +0.9%		+0.8% ~ +1.2%	+0.7% ~ +1.1%
	< +0.7% >		< +1.1% >	< +1.0% >
2021年度	+1.0% ~ +1.3%		+1.2% ~ +1.6%	
	< +1.1% >		< +1.4% >	
10月時点の見通し	+0.9% ~ +1.2%		+1.2% ~ +1.7%	
	< +1.0% >		< +1.5% >	

【出所】日本銀行、Bloomberg